

## ふみびと

第371号  
発行所  
文通村事務局  
編集 広報部  
千葉県成田市

どこにでもある  
唯一の言葉

## 続けるきっかけ

学生の頃にやっていた飲食店のアルバイト。とても厳しくて忙しいこともあり辞めてしまう人も多かったのですが、それでも長年続けることができたのは、他にやりたいことがなかったからでも、給料がよかったからというわけでもなく、お客様からいただく「おいしかった」「ありがとう」という、ただその一言が何より嬉しかったから。

一人の人を長年そのお店に留めるような「魔法

の言葉」は、今でも私にとって働く動機になっているような気がします。

そんなことをふと思っただのは前に母と話した時のことを思い出したから。私が子どもの頃、母は私たち兄妹が食べたいと言えば、今にして思えば作るのが面倒な料理も嫌な顔一つせず作ってくれていました。

もちろん手間のかかる料理を、急に食べたいと言われて一から作るものが面倒でないことはなかった。



たと思うのですが、それを喜んで食べる子どもたちを見たり、「おいしい」という一言を聞けるのが何より嬉しいことで、料理が好きだという理由なのだと。

「ありがとう」「おいしい」そのたった一言がなかっただけで、もしかしら私にはあの時仕事を続けていなかっただけかもしれない、母は料理を好きになっただけでなかったかも

気持ち伝わらないもどかしさは、心にそっとトゲを残す。言葉にならず、頭の中をぐるぐると巡る思いは、静かな焦りとなって胸を締めつける。そのままにしておくと、まるで湿った空のように、ずっと晴れない気分が続く。けれども、紙に向かい、文字にして綴ると、そのもやもやは少しず

## 気持ちの輪郭

に寄り添う。書きながら、思いの正体にふと気づくこともある。忘れていた小さな傷や、言えなかつ

た優しさが言葉の端々から顔を出すこともある。そして、書き綴るうちに、自分と正直に向き合ってみるこの意味に気づく。そうして言葉にした自分の思いは、振り返れば感情の日記となり、やがて自分史となる。誰よりも自分を理解し、支えてくれる、もうひとつの自分がそこにいる。

風に揺られて誰かに届け  
風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだす。事務信同の返封下流です。宛封さで交り局用封今い



## 次回発送日

今回の発送日は6月30日の予定です。送りたいお手紙がある場合は27日までに事務局に到着することを近頃の郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。

## 感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて頂き、方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報保護を伏せた上でご紹介させて頂きます。ご要望等もお気軽にお送りください。

